

『藤農便り』 第 6 号

農業生産法人 藤野倶楽部

藤野での 2 回目の夏が過ぎました。管理する農園が牧野・名倉・佐野川・藤野駅前と分散しているため車で駆けずり回る日々が続きました。週 1 日の休日は援農ボランティアで朝から畑の草取り、夏の間は日没までずっと農園で汗を流しました。おかげで体は締まり、20 代の頃の体型を取り戻しました。お盆休みは宿泊のお客様の対応や洗濯・掃除に追われ、娘や息子・古い友人たちに会えなかったのが残念でした。

・ビオ市その 2

4 号で報告したビオ市ですが、クチコミ以外に新聞・テレビ等のマスコミや広報さがみはらに紹介され、訪れる人が回を重ねるごとに増えています。地元の人たちだけでなく、遠方から前日に百笑の台所ギャラリールームに宿泊される方や観光バスでいらっしやる団体もあり、ポスター写真にあるように大賑わいです。窓辺の少女たちはウーファーで藤野倶楽部に滞在していたイギリス人の高校生、外国からのお客様が多いのもビオ市の特徴です。

出店数は農家 20 軒・飲食やアロマ等 10 店以上となり、それぞれ自慢の生産物や商品を持ち寄り、来場者と対面販売をしています。つくいやさいのメンバーをはじめとする若手農家のブースには、トマト・ナス・キュウリ・オクラ等夏野菜が山盛りです。ポップも工夫され、お客様の購買意欲をそそります。藤野倶楽部は里山茶と苗の他に彼らの数分の一の夏野菜しか販売できないのですが、ひいきにくださるお客様にいつも励まされます。「春に買った相模半白がよく実をつけているよ。秋野菜の苗もよろしく！」と声をかけていただくと、毎日温室で手塩にかけて苗を育てた苦労が報われます。今はキャベツ・ブロッコリー・ハクサイ等秋野菜の育苗真最中、これからも良い苗を出し続けたいと思います。

この夏のイベントでは、ビオ市のメンバーと篠原で開催された

「e 級グルメを食べ尽くそう!」、牧郷で開催された「森のスコラ」に参加しました。11 月にシュタイナー学園で開催される「藤野まるまるマルシェ」実行委員会からは取材があり、Facebook に紹介していただきました。ていねいにまとめてくださった記事ですので皆さんご覧になってください。



宮本 透 (自然文化誌研究会)

事務局の土屋さんが中心になって取り組んでいる TABICA の企画では、ファミリー向け自然体験「ランチ付き! 有機無農薬のお茶摘み体験 摘みたての茶葉を味わおう@相模原市」を担当、佐野川のお茶の PR をします。

ビオ市やイベントは先輩農家との交流の場になり、とても刺激を受けています。先日、新聞に日本の農業の就業人口が今年に入り 200 万人を割ったと報道されましたが、津久井地区ではこの 5 年間に移住し就農した若者は 30 名を越えているそうです。お付き合いする若手農家のはつらつとした姿は、私に「お茶農家になりたい」と 2 年前藤野に移住した時の決意を思い出させてくれました。秋からは、佐野川でお茶畑を借りる準備を始めます。

・自給農耕ゼミ第 6 回

6 月 18 日、木俣師を講師に藤野駅前畑と結びの家で自給農耕ゼミを開催しました。参加者はお百姓クラブのメンバーや植物の人々の博物館メルマガ読者 12 名、写真のように梅雨の晴れ間にめぐまれて午前中は畑仕事に汗を流しました。私が木俣研にいた 30 数年前に秋山村の農家から分けていただいた赤いアワをはじめ、モロコシ・ヒエ・シコクビエ・ハトムギ・キヌア・アマランサス等、各種雑穀を播種しました。百笑の台所へ移動して昼食、午後からは結びの家で「生業の勤め。欧米の雑穀、古守先生懐古など」をテーマに木俣師の講義です。受講者には幼児もいましたが、皆さんに熱心に聴講されていました。



ゼミ後の管理は木下さん・末村さんと協力し合い草取りやシコクビエ・アマランサスの定植等、時間を作って畑に通っています。作業後に 3 人でビールを飲むこともあり、新しい飲み友達ができ、楽しみが増えました。8 月下旬の台風でキヌアに被害が出ましたが、他の雑穀は順調に生育してきれいに収穫しています。中央線藤野駅のホームからよく見えるので「スズメがきはじめているね」と心配してくださるお客様もあり、関心を持つ方が増えているようです。先日、木下さん宅近くにあるお百姓クラブの雑穀畑を見学しましたがキビやアワがたわわに穂を垂らしており、藤野が雑穀の里になるのもそんなに先ではないと実感しました。3 人で防鳥ネットを張りながら、自給農耕ゼミ第 7 回の打ち合わせをします。

日程が決まりましたら植物の人々の博物館メルマガ等でお知らせしますので、駅前畑においでください。

・高校クラス会

私が生まれ育った藤沢は教育熱心な家庭が多く、中学校の先生たちもそれに応えるべく厳しい授業をしていたようです。1970年代の中学校、毎朝 15 分の漢字・英単語・計算問題の小テスト、土曜日午後の補習、定期テストの成績は廊下に張り出され、その結果に一喜一憂したものでした。1・2 年の学年末には県下一斉 9 教科のアーチーブメントテストが実施され、「400 点以上取らないと湘南高校には入れないぞ！」と各教科の先生たちから叱咤激励されました(県立湘南高校は東大はじめ有名大学に多数合格者を出す湘南・鎌倉学区の進学校)。私はのんびりした性格で農業高校に進学したかったのですが、教育ママや担任に勧められるまま県立光陵高校を受験しました。

私が 8 期生の光陵高校は当時新設の進学校で将来横浜国立大附属高校に移管されるということで学区がなく、「国公立と早慶上智以外は大学でない」という先生もいて授業はいつも緊張したものです。クラスメイトも必死に勉強していて 2 年生の 3 学期になると皆受験モード、しんどくなり競争するのをやめました。当然授業に出るのが苦痛になり、不登校・引きこもりです。

3 年の担任は鈴木彬先生、家にいると「宮本君いるかな？」と家庭訪問、親もよく呼びだされその度に父親にはこっぴどく叱られたものでした。欠席が 60 日を越え、2 学期中間テスト後の面談で「このままでは卒業できなくなる。どうするのだ？」と聞かれ、「学校辞めて大検受けて進学します」と答えました。先生は「大検は地方の 2 期校に受かるくらいの学力がないと合格できない。君にそれだけの学力があるか？我慢して学校へ来て卒業したほうがいい」といわれました。とにかくしつこくくらいに面倒見がよく、生徒を見捨てない先生です。それから卒業式前日まで休まず登校、補習・追試が続きました。この憂鬱な日々は青春時代の大きなトラウマとなり、40 代になっても時々悪夢となってよみがえり苦しみ続けました。

45 才の時、クラス会幹事から電話があり「クラス会を開くけど、鈴木先生が宮本君にも声をかけてほしいといわれているので参加しませんか？」と誘われました。2 回目のクラス会で初参加の人も多く、高校卒業以来の再会でした。クラスではポッチだった私ですが、皆と話すと青春時代の悩みは誰もあまり変わらなかったことがわかりました。高校黒歴史のトラウマが癒されるきっかけとなり、クラスメイトとの付き合いが始まりました。5 月に横浜で 3 回目のクラス会が催されました。写真は「クラスの問題児に」と先生からのご指名で記念品贈呈の大役を仰せ付かった時のものです。2 次会で「先生の家を訪ねよう！」と盛り上がり、7 月に 4 人の仲間でおじゃましました。高校時代の思い出や今の生活・仕事の話

等、話題は尽きず楽しい時間を過ごしました。

・津久井やまゆり園の事件

7 月 26 日未明、相模原市緑区にある障害者施設「津久井やまゆり園」で入所者 46 名が死傷した事件がありました。テレビやラジオを持っていない私は昼過ぎに「相模湖で大変な事件が起こっている」という町の人のお話を聞き、初めて事件を知りました。翌朝の新聞を読み、元職員の容疑者が園生 19 名を刺殺、彼は障害者を差別し抹殺するために犯行に及んだのだと理解したのです。新聞記事は、大麻の陽性反応があり精神を病んでいること、職場でのトラブルから辞職して措置入院したこと、小学校教員を志して挫折したこと等、容疑者の生活環境に関する内容が大半を占めています。彼の犯行には強い怒りが込み上げられますが、同時に彼を犯行に追い詰めた社会の問題も考えなくては行けないと思いました。



1%の資本家と権力者が私たちに強制している新自由主義は、2000 年代になるとすさまじい格差を作り出しました。高所得富裕層の対極は、年収 200 万円以下の生活を強いられている 1000 万人を超える貧困層です。4 割の労働者が非正規雇用で、運よく(?)正社員になった若者はブラック企業に酷使され命をすり減らしています。規制緩和によって「命より金」を優先する企業がはびこり、社会保障制度も崩壊寸前です。すさんだ世相を反映し、在日外国人や生活保護者、米軍基地と闘う沖縄の人たちを憎悪するヘイトスピーチが増えています。こうした社会で生活してきた容疑者は、心を病んで障害者に対しての差別・優生思想を持ったのでしょう。1930 年代のドイツ、ヒトラーを先頭に 20 万人の障害者を秘密裏に抹殺した T4 作戦、第 2 次世界大戦に突き進み 600 万人ものユダヤ人をガス室に送り込んだホロコーストの歴史は、差別・優生思想の行き着く先を教えています。

8 月 2 日のピオ市でも事務局が献花台を設け、藤野の山々に咲くヤマユリが飾られました。参加者はそれぞれに思いを込めて、「津久井やまゆり園」犠牲者の冥福を祈りました。私は、学生時代に水俣で甘夏栽培をしている人たちから「胎児性水俣病で体が不自由になった患者さんは、ミカンの木の下で寝ている事が仕事なのだ」という話を聞いた時のことを思い出しました。障害を持った人が隔離・排除されずに地域の中で生活し「寝ている事が仕事」になるのが当たり前の社会では、容疑者のような「障害者なんていなくなればいい」という考えは無くなるはずで

<お知らせ> 藤野倶楽部は今年も INCH 賛助会員です。INCH 会員への特典として、ナマステ今号を持参された方には「百笑の台所」の食事料金を 10%割引いたします。アクセスは藤野倶楽部の HP をご覧ください。